

■ 研究ノート

長春市における外地戸籍大卒者の居住問題：
中国都市部の若者の見えない賃貸居住の実態

杜 榮¹⁾、式 王美子²⁾ *

【要旨】本研究は、中国有数の大学都市である長春市を対象に、地方から進学した外地戸籍の大卒者の居住実態を現地観察とインタビュー調査により探索的に把握することを目的としている。大都市の外地戸籍人口の問題は主に農村戸籍を持つ「農民工」の問題を中心に議論が進められてきたが、近年、北京市を中心とする地方出身大卒者「蟻族」が郊外の低質賃貸住宅に群居する様が報告され、外地戸籍大卒者の大都市生活状況が注目を集めた。しかし本研究の調査結果からは、長春市では北京市のように大卒者が特定地域に群居する様子は観察できなかった。インタビュー調査からは、外地戸籍の大卒者の多くは、民間の分譲賃貸住宅や社員寮を知り合い等とシェアして居住しており、ストレスの高い居住状況から転居を繰り返しながら不安定な生活をしていることがわかった。居住の課題としては、主に、高い家賃負担、プライバシーのなさ、住宅の質の悪さ、住宅購入の困難、の4つの問題が抽出された。また、外地戸籍大卒者の多くが、郷里の親から住宅購入支援や日常的な経済支援を受けていることがわかった。

キーワード：中国長春市、外地戸籍大卒者、居住実態

I. 研究の背景

I.1 中国戸籍制度における都市部の外地戸籍居住者

1980年代に加速化した改革開放政策以降、大規模な人口が農村や地方都市から機会を求めて大都市へと移動し、都市人口の急速な増加をもたらしている。これらの出稼ぎ労働者や大学生・大卒者等の地方からの移住者は外地戸籍人口となる。外地戸籍人口とは、居住市（地）以外で登録された戸籍をもつ居住者のことである。中国の戸籍制度では出生地により戸籍が登録され、戸籍の登録地の変更は難しい。大都市に多く居住する外地戸籍保有者は、居住市における医療・教育・住宅等の公的サービスを受けられないため、居住市戸籍保有者と外地戸籍保有者の間には社会的待遇の格差が存在している。外地戸籍の問題は、特に農村から仕事を求めて都市部に移住する「農民戸籍」都市労働者（農民工）の問題として注目を集め政策的な議論となっており（鎌田 2010）、都市部の農民工の生活居住実態を把握しようとする研究も実施されている（徐他 2015）。

I.2 大都市における大卒賃貸居住と城中村研究のレビュー

このように都市部への移住者、つまり大都市の外地戸籍人口の問題は主に農村戸籍を持

1 立命館大学大学院政策科学研究科博士課程前期課程

2 立命館大学大学院政策科学研究科

つ「農民工」の問題を中心に政策的及び学術的に議論が進められ、本論の研究対象である外地戸籍大学生や大卒者の大都市での生活状況についての学術的な関心は薄かったといえる。その中で 2009 (2010) 年に出版された北京市の若手研究者廉思による『蟻族：高学歴ワーキングプアの群れ』でレポートされた、北京市郊外地域の低家賃住宅地域に「群居」する低所得大卒者「蟻族」の生活実態は、地方出身大卒者の悲哀として中国及び海外メディアに大きく報道された。同時期に、北京市に限定されるが、大都市の賃貸住宅居住者の住環境の悪さが統計的に明らかになり始めた。中国オンライン新聞新浪調査が実施した 2010 年の北京市賃貸居住者に関するアンケート調査の結果によると、居室面積については回答者の 28%が 10 m²以下、6%が 5 m²以下であり、また半数近くの 43%が他世帯とのシェア居住であることが示されている (Sun 2013)。

中国の住宅開発においては賃貸住宅の供給は一般的ではなく、政府が公営住宅として提供している賃貸住宅以外では、民間賃貸住宅は分譲住宅が賃貸住宅化したものか、「城中村」と呼ばれる都市周辺地の農村集落に建設された低質な賃貸住宅かに大きく分かれる。前述の新浪による賃貸居住者アンケートによると、回答者の 20%が城中村の賃貸住宅に居住していると回答しており、蟻族の居住地域も多くが城中村であると思われる。

城中村とは、1980 年代後半から急速に広がった中国都市部における不良住宅地域であり実態把握や地域変容、開発の動向について研究が進められている (e.g.孫他 2011)。しかしながら城中村の研究は、あくまで不良住宅もしくは低所得地域というある特定空間についての研究であり、本稿が対象とする外地戸籍大卒者の居住実態の把握とは目的を異にしている。北京市やその他の大都市に居住する蟻族の研究からは、外地戸籍大卒者は城中村などの都市周辺地域に群居していると考えられるが、長春市や重慶市の城中村の調査からは大卒者が城中村に居住している様子は報告されていない (菅野 2010, 孫・城所 2011)。重慶市の城中村の居住者アンケート調査からは、借家人は一般市民より低学歴である傾向にあり、多くが出稼ぎの外地戸籍居住者である様子が記述されている(孫・城所 2011)。また、筆者の 1 人も長春市で大学生生活を送り、長春市に居住する外地戸籍の大卒の知人も多いが、大卒者が多く居住している低所得地域の話は耳にしていない。

II. 研究の目的と研究方法

以上のことから、北京市を中心とする外地戸籍大卒者の群居居住の実態は必ずしも他の大都市にはあてはまらない可能性がある。一方で、中国住宅市場では民間開発業者による賃貸住宅の開発は乏しく、また中国政府が近年政策展開し始めた公営賃貸住宅に関しては、外地戸籍の住民が入居できる可能性は非常に限定されており、北京市ほどの大都市ではなくとも、人口が急速に拡大し低廉な住宅入手が困難な都市部において、大学寮を出た後の外地戸籍大卒者の住宅探しは容易ではないと推察される。

本稿では、中国の第 2 級大都市であり中国有数の大学都市である長春市¹⁾を対象に、外地戸籍大卒者の居住実態を、質的なヒアリング調査を通して探索的に把握することを目的とする。既存の大都市での調査では外地戸籍大卒者の集住する地域が特定できていたのとは異なり、長春市での居住地域の把握はできていない。調査対象者をアンケート調査のために特定するのは困難であり、既存研究による情報も乏しいため、質的で探索的な調査に

より第1級大都市以外での外地戸籍居住者の生活・居住実態を把握していく研究方法を採用した。

調査は2段階に分けて実施した。まず第1段階はプレ調査として(1)2016年9月に長春市の城中村への訪問調査と(2)2016年3月に大卒者3人へのインタビュー調査を実施し、長春市の大卒者の居住地と居住実態や住宅市場についての初歩的な把握を試みた。第2段階では、第1段階調査の結果を踏まえて、長春市にあるA大学の教員の協力により、長春市に居住する長春市戸籍・外地戸籍卒業生12人へのインタビュー調査を2016年9月に実施した。

Ⅲ. 第1段階調査：プレ調査

Ⅲ.1 長春市の城中村における大卒者の居住についての現地調査

先行研究から長春市においても城中村を含む多くの不良住宅地が存在していることがわかっている(菅野 2010)。先述したようにこれらの地域に多くの大卒者が居住しているという報告はないが、低廉な賃貸住宅を求めて低所得大卒者が居住する可能性は考えられる。プレ調査においては、長春市の周辺地域に存在する幹線道路沿いの城中村を踏査し、地域住民へのインタビュー調査により大卒者居住の形跡を探索した。

写真1～3は視察した城中村の様子を示す。市内の幹線道路の片側に低層の住宅地が広がっている。写真1が示すように、道路の反対側は高層マンションが立ち並んでおり道路を隔てて別世界が広がる。道路沿いは商店が立ち並んでいるが、舗装されていない路地の中へ進むと平屋建ての低質住宅が並ぶ。道路は水でぬかるんでおり異臭がすることから排水設備が未整備であることがうかがえる。貸家ありの広告から貸家があることがわかるが、街全体としてはあまり人をみかけない。貸家を探し貸主にインタビューしたが住人としては、大学生や大学卒業生はいないという話だった。

Ⅲ.2 大卒者3名のインタビュー調査

プレ調査として、以下の住居タイプの異なる20代前半3名の大卒者を対象にインタビュー及び住宅訪問調査を実施した。表1はインタビュー調査の概要をまとめたものである。



写真1：長春市幹線道路沿い（右側）の城中村地域の入り口



写真2：低層長屋の賃貸住宅。排水設備が整っていない道路がぬかるみ異臭がした。廃棄物も多い。



写真3：賃貸空き部屋の内部の様子。

Aさんは長春市戸籍であり、BさんとCさんは吉林省出身であるが長春市外出身であり外地戸籍である。3名とも女性でいずれも現在正社員として働いている。

表1：長春市の20代前半大卒者3名へのプレ・インタビュー調査のまとめ

対象者	A	B	C
戸籍	長春市・女性	長春市外（吉林省）・女性	長春市外（吉林省）・女性
現在の住居	親の持家に両親と同居	民間賃貸住宅	社員寮
建物の特徴	19階建ての12階の分譲マンション。築3年	30階建ての20階の分譲賃貸。築2年。	元学生寮を改装したものの。築年不明。
住戸タイプ・面積	3個室2ダイニング室リビング及びキッチン、140㎡	1LDK、33㎡	ワンルーム（トイレ建物内風呂なし[建物外シャワー店使用]）、30㎡
住戸面積	140㎡	33㎡	30㎡
住戸居住者（本人含む）	3人・家族	2人・恋人	4人・同僚
月収に対する本人の住居費負担の割合	なし	3割弱	1割弱
親からの経済援助	なし	あり	あり
内部様子			
			

長春市戸籍のAさんは、現在両親と同居し親が所有する分譲マンションに居住している。築年3年の新しい分譲マンションであり、個室が3つ、ダイニングルームが2つにリビングとキッチンの部屋タイプであり、住戸面積は140㎡であることから、親子3人にとっては十分な広さといえる。Aさんは個室の一つを自室としている。Aさん本人の住居費負担はない。

外地戸籍のBさんは、中国では一般的な民間賃貸住宅形式である分譲賃貸住宅に居住している。築2年の新しい高層住宅である。住宅タイプは1LDKであり、現在恋人と同居中である。築浅の分譲賃貸ということで住宅の質は高いといえるが、恋人と住居費を分担しながらも、月々の家賃はBさんの月収の3割弱に上っており住居費負担は重い方といえる。親からの経済援助を受けている。

もうひとりの外地戸籍のCさんの住宅状況は、ほか2名に比べると大幅に劣る。Cさんは勤務先の会社寮に居住しており、この会社寮は元大学寮の建物を改装したものであるら

しく、建物はかなり老朽化している。長春市の会社寮としては一般的らしいワンルームに2段ベットを2つ並べた居室タイプである。元大学寮としてはこちらも一般的らしく、建物内にトイレや洗面室はあるが、シャワーは外のシャワー店を利用する。狭小のシェア居住ではあるが、その反面Cさんの月収に占める家賃の割合は1割弱であり、住居費負担は軽い方といえるだろう。しかしながら、CさんもBさん同様、親からの経済援助を受けている。

Ⅲ.3 プレ調査のまとめ

大卒者の居住状況の把握のために実施した城中村視察と大卒者インタビューによるプレ調査により、以下の調査の方向性が確認された。まず、先行研究からも推察されたように、北京市等で報告されている蟻族の群居居住とは異なり、長春市においては城中村などの不良住宅地に大卒者が居住している形跡をみつけることはできなかった。またインタビュー調査からも、外地戸籍大卒者が群居している地域の存在はうかがえなかった。インタビュー調査では、長春市戸籍と外地戸籍大卒者の居住状況の差異が際立った。長春市戸籍の大卒者の場合は親所有の築浅分譲住宅に親との同居であったため住宅の質が高く住居費もかからない状況である。対照的に、外地戸籍大卒者2名については、1人は質の高い分譲賃貸住宅に恋人と同居生活をするが家賃の高負担を抱えており、もう1人はトイレ共有バスなし4人部屋の老朽化した社員寮で過密居住をする状況が明らかになった。住居タイプが異なる3名ではあるが20代前半と若いこともあり、今後の生活の見通しについては楽観的でよく考えていない様子であった。

Ⅳ. 第2段階調査：大卒者インタビュー調査

プレ調査の結果により長春市の外地戸籍大卒居住者を特定の地域で見出す可能性は低いことがわかったため、第2段階調査では地域ではなく人をベースに研究を進めていくアプローチをとった。長春市のA大学の文系学部の教員にご協力をいただき、長春市に在住する20代から30代の学部卒業生にコンタクトをとった。その結果、12人の大卒者にインタビューを実施し、実家の家族、住まいや就業に関する現在の状況や問題についての詳細な情報を得ることができた。12人の内、2名が長春市戸籍、残りの10名が外地戸籍の大卒者である。表2は12人のインタビュー調査の概要をまとめたものである。インタビューは、日本中国間でのメールにより実施した。

Ⅳ.1 実家の家族の状況

大卒という高学歴の若者ということから、調査協力者の家族が大学進学費用を捻出できただけでなく、少なくとも調査協力者が家族のために10代のころから働く必要がないぐらいのある程度の経済力があることは推察できる。予測どおり、調査協力者は自身の家族の経済状況について、2人が「やや苦しかった」「苦しかった」と答えた以外は、「普通」「ゆとりがあった」と答えている。また、「やや苦しかった」「苦しかった」の2人を含む

多くが家族から住宅購入や経済的な支援を受けているところからも、調査対象者の家族が貧困家庭ではなく、少なくとも中流家庭程度であることがわかる。また、中国での一人っ子政策を背景に調査協力者の 12 人中 8 人が一人っ子であり、兄弟姉妹がいても 1 人で、子どもの少ない家庭であることも、家族が子どもの教育費や生活援助に費やすゆとりを生み出していると思われる。家族の経済状況については、外地戸籍大卒者の家族の経済状況について、長春市戸籍の家族と比較して、特徴的な差異は見受けられない。

IV.2 就労・経済状況

就職で苦労したものもいるにせよ、調査協力者の全員が大学卒業後に正社員として就職している。文系学部出身の大卒者であることから、事務職と営業職が多い。そして現在も 1 人を除き全員が正社員として働いていることから、長春市の大卒者の若者の雇用状況は悪いわけではないといえる。しかしながら就労環境が良いわけではなく、残業による長時間労働や給与待遇の悪さなどの不満は多くみられ、そのような就労環境に対する不満は、転職回数の多さに現れている。転職回数は、大学卒業後の初めての仕事以降の主な仕事の数を数えたものだが、転職経験なしは 2 人であとは転職 1 回が多く、なかには 27 歳にして転職 3 回（11 番）、26 歳で 4 回（9 番）のケースがあった。転職した理由には、色々な仕事を体験したいという面も少なからず見られ、転職が日本ほどネガティブに捉えられていないという側面も垣間見られた。今回の少ないケースにおいては、就業状況について長春市戸籍と外地戸籍での目立った差異は見られなかった。

しかしながら、現在の生活状況を尋ねると調査協力者の半数が「やや苦しい」と答えている²⁾。生活の苦しさについては、家賃の高さ等の現在の居住状況と密接に関わっている発言が多く（居住状況は後述）、そのため現在民間賃貸住宅に居住しているケース、つまりは外地戸籍の大卒者において生活が苦しいと感じる傾向にあるといえる。また、外地戸籍の調査協力者の 10 人中 9 人が郷里の親から住宅購入時の資金支援やその他の経済支援を受けており、経済的に苦しい長春市での生活状況をみることができる。

IV.3 長春市戸籍大卒者の居住状況と問題

長春市戸籍の大卒者の場合、大学を卒業時に大学寮を出て³⁾実家の親の持ち家で親と同居して暮らしており、今回の調査の 2 ケースについては未婚であることもあり、その後一度も転居していない。親からの経済的支援も受けていないが、実家暮らしで住居費の負担もない。プレ調査で訪問した長春市在住の大卒者の持家住宅から推察すると、家族 3 人で生活するには十分な広さの持家住宅である可能性は高く、本人たちからも現在居住する親の持ち家の住宅そのものについては不満は聞かれなかった。長春市戸籍の男性からは、「自分の家がほしい。早く親から独立したい。1 人暮らしできる収入を確保できる仕事を探したい。結婚をしたらお金が必要だから」というように親から自立、住宅取得、結婚についての強い希望が聞かれた。

表 2：長春市の大卒者の生活・居住状況に関するインタビューのまとめ

No	戸籍	性別	年齢	進学前の家族の状況		現在の世帯構成	現在の住居	シェア同居者人数		住居費負担	親の経済援助	転居回数 ^d	住居層	現在の仕事	転職回数 ^e	職歴	本人の生活状況	社会保険
				家族構成	状況			同居者人数 ^b	同居者属性									
1	長春市戸籍	女	30	3人(両親、本人)	普通	未婚(親と同居)	実家(親持ち家)	-	-	無し	無し	0	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家)	フリーの作家	1	出版会社・事務(正社員2年)→転職自宅療養(自律神経失調症)→フリー作家・事務(正社員1年)→製造業・事務(正社員1年)	普通	未加入
2	長春市戸籍	男	26	3人(両親、本人)	ゆとりがあった	未婚(親と同居)	実家(親持ち家)	-	-	無し	無し	0	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家)	製造業・事務	1	貿易会社・事務(正社員1年)→製造業・事務(正社員1年)	普通	加入
3	外地戸籍(山東省)	女	32	3人(両親、本人)	普通	既婚(夫・本人、子)	自分持ち家(夫の親が頭金支払)	-	-	ローン有り	無し	5	大学寮(2段ベッド・4人)→民賃シェア(個室無5ヶ月)→民賃シェア(個室2年)→民賃シェア(個室2年)→実家(親持ち家5ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→自分持ち家	BPO会社・営業職	1	BPO会社・営業(正社員5年)→BPO会社・営業(正社員3年)	やや苦しい	加入
4	外地戸籍(遼寧省)	女	25	4人(両親、弟、本人)	ゆとりがあった	既婚(夫と本人)	親所有の家(親が頭金支払)	-	-	ローン有り	無し	3	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家1年)→社寮(個室無・3ヶ月)→民賃シェア(個室9ヶ月)→親所有の家	IT会社・事務	0	無職(1年)→IT会社・事務(正社員2年)	普通	加入
5	外地戸籍(遼寧省)	女	26	4人(両親、妹、本人)	やや苦しかった	未婚(恋人と同居)	自分持ち家(親が頭金支払)	1人	恋人	ローン有り	有り	3	大学寮(2段ベッド・4人)→民賃シェア(個室・11ヶ月)→実家(親持ち家2ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→自分持ち家	教育関連会社・営業職	1	留学関する教育会社・事務(正社員1年)→無職→留学関する教育会社・営業(正社員1年)	普通	未加入
6	外地戸籍(遼寧省)	女	27	3人(両親、本人)	普通	未婚(恋人と同居)	民間賃貸住宅シェア(個室有)	1人	恋人	2割強	無し	3	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家6ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室6ヶ月)→民賃シェア(個室2年)	銀行員・営業職	0	銀行・営業(正社員3年)	やや苦しい	加入
7	外地戸籍(吉林省)	女	27	4人(両親、兄、本人)	普通	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室有)	2人	知り合い	3割弱	有り	3	大学寮(2段ベッド・4人)→社寮(個室無・2人6ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室2年)	BPO会社・営業職	1	BPO会社・営業(正社員1年)→BPO会社・営業(正社員2年)	やや苦しい	加入
8	外地戸籍(吉林省)	女	27	3人(両親、本人)	普通	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室有)	2人	友人	3割強	有り	4	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家6ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室1年)	IT会社・営業職	1	BPO会社・営業(正社員2年)→IT会社・営業(正社員1年)	普通	加入
9	外地戸籍(遼寧省)	男	26	3人(両親、本人)	普通	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室有)	2人	友人	3割強	有り	3	高校寮(2段ベッド・8人)→大学寮(2段ベッド・6人)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室1年)→実家(親持ち家2ヶ月)→民賃シェア(個室1年)	不動産会社・事務	4	不動産会社・事務(正社員1年)→不動産会社・事務(正社員1年)→自営業(3ヶ月)→不動産会社・事務(正社員1年)	やや苦しい	未加入
10	外地戸籍(湖北省)	女	26	3人(両親、本人)	普通	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室有)	1人	同僚	3割強	有り	3	大学寮(2段ベッド・4人)→実家(親持ち家6ヶ月)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室1年)	小学校教師	2	小学校教師(正社員1年)→中学校教師(正社員1年)→小学校教師(正社員1年)→小学校教師(正社員1年)	やや苦しい	加入
11	外地戸籍(遼寧省)	男	27	3人(両親、姉、本人)	普通	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室無)	(3人)	知り合い	3割弱	有り	3	大学寮(2段ベッド型・8人)→社員寮(個室1年)→民賃シェア(個室6ヶ月)→民賃シェア(個室無4人6ヶ月)→民賃シェア(個室無4人1年)	医療器具会社・営業職	3	ホテル会社・フロント(正社員1年)→薬会社・営業(正社員0.5年)→不動産会社・営業(正社員0.5年)→医療器具会社・営業(正社員1年)	苦しい	加入
12	外地戸籍(吉林省)	男	27	3人(母、本人)	苦しかった	未婚・单身	民間賃貸住宅シェア(個室無)	(3人)	同僚	3割強	有り	2	大学寮(2段ベッド・12人)→実家(親持ち家1年)→民賃シェア(個室1年)→民賃シェア(個室2年)	人材派遣会社・営業職	1	自営業(1年)→人材派遣会社・営業(正社員3年)	やや苦しい	加入

- a 未婚で家族以外と同じ住戸で生活している状況をシェア居住ととらえた。
b 自分を含まない同じ住戸での同居者の数。() は同室での(個室なし)同居者数であり、このケースでは同じ住戸での同居者数は不明。
c 前の項目の住居費負担で記述されている住宅購入の際の親の支援以外の経済的な支援の有無。
d 大学卒業後(大学寮を引越した後)に入居した住宅以降の転居回数。
e 大学卒業後に就職した会社以降の転職回数。

IV.4 外地戸籍大卒者の居住状況と問題

一方外地戸籍大卒者の場合、既婚者が含まれていることもあり、現在の居住状況は多様である。大きくは、既婚者が結婚予定の恋人と暮らしており自分か親所有の持ち家に居住しているケース（3番、4番、5番）と、民間賃貸住宅で恋人、知り合い、友人等とシェア居住しているケース（6番から12番）に分かれる。

外地戸籍大卒者の持ち家のケースについて特徴的なのは、住宅購入において頭金は親（伴侶の親含む）が支払い、その他の住宅購入資金については本人が住宅ローンによって負担している点である⁴⁾。現在持ち家に夫と娘と暮らす3番の女性は、「我々大卒者の収入はそんなに高くないのに、家賃が非常に高かったし、分譲住宅も大卒者には大変な価格だ」と語っているように、大卒の若者が自力で持家を購入するには住宅価格が高く、親の頭金等の支援は住宅購入においては必要不可欠であると思われる。同3番の女性については、「住宅ローンの返済は何十年もかかるので、生活はやや苦しい」と述べているが、他の持ち家住宅に住む4番と5番は生活は「普通」と答えている。5番に関しては、住宅ローンの負担感⁵⁾については世帯収入によって異なると思われるが、親に車も購入してもらっているほか経済支援も受けており、親の経済的支援によるところも大きいと思われる。

その他の外地戸籍大卒者は民間賃貸住宅に住んでおり、全てのケースに同居者が存在する。先行研究の章で記述したが、中国の住宅市場においてはワンルームアパート等の単身者用の賃貸住宅の新規開発供給が極めて少なく、民間賃貸住宅の多くが分譲住宅として建設売り出され、後に持ち主が他の住宅を入手した際に貸し出された分譲賃貸である。これらの分譲住宅は家族向けに建設されているため部屋数が多く広めである。従って、賃貸住宅を借りる場合、友人、知り合い、同僚等とシェアして住むケースが一般的である。

本インタビュー調査では、5番から10番の場合同居人1人から2人と賃貸住宅をシェアして借り、住戸の居室の一つを個室として使用しているケースであり、11番と12番は住戸の部屋のタイプや住戸全体の同居人は不明だが、一つの居室を本人を含めて4人でシェアし個室がないケースである。一般的に考えると、多くの人と住居空間をシェアしかつプライベートな空間がない居室シェア（個室なし）のほうが家賃負担は少ないと思われるが、5番から12番までの民賃シェアのどのケースでも、6番を除いて家賃は月収の3割前後になっている。例えば、12番は3人の同僚と居室シェアをしているが、この社員寮のような暮らしであっても住居費負担が3割強であることから、所得がかなり低いことが推察される。

長春市戸籍と外地戸籍の大卒者を比較した場合、差異が最も顕著に現れるのが転居歴である。現在、持ち家に住む外地戸籍者であっても、そこにたどり着くまでに多くの転居を繰り返しており、20代のに絞っても外地戸籍者の平均転居回数は3回である。長春市戸籍者の0回とは比較するまでもなく、転職回数と比較しても多い状況にあり、大学寮を出た後、就職活動中で収入がなかったり、新卒で給与が低い状況で住まいを探しをせねばならず、家賃と住環境の質とのバランスのなかで、居住が不安定にならざるを得ない外地戸籍大卒者の生活状況が読み取れる。以下、現在の生活状況と過去の住居歴に関するインタビューの中で、外地戸籍大卒者から挙げられた居住の課題をまとめる。

①高い家賃負担

- 外地戸籍の10人中8人が居住歴のなかで、家賃が高かったとの不満を発言している。
- ・友達と3人で一緒に部屋を借りて何回も転居して暮らしていた。住宅は老朽化しているだけでなく、家賃がとても高かった。(5番)
 - ・毎月収入の3分の1を家賃としてはらっていたので、苦しかった。(10番)
 - ・毎月の収入の大部分は家賃として支払った。本当に安くて、よい賃貸住宅に住みたい。(11番)

②シェア居住における狭い居住空間とプライバシーのなさ

- 民間賃貸住宅に住む場合シェア居住が必須となるため、プライバシーのなさを課題とあげるケースが多かった。特に、居室シェアでのストレスは高く、その意味では居室シェアの社員寮への不満から、より密度の低い友人との民間賃貸住宅のシェアを選んだケースも見られた(しかしその場合、高い家賃や通勤時間の長さなどのコストがかかる)。また、恋人との同居のために、より高い家賃のシェア居住を選んだケースもあった。
- ・同じ部屋に4人で住んでおり、プライバシーがなかった。(11番)
 - ・社員寮での生活では、4人から6人ぐらいのグループで部屋を使用した。2段ベッドで寝ていたのを覚えている。その後、友人と3人で賃貸住宅に住むことにした。家賃は高かったが、社員寮よりは良いと思う。しかし通勤時間が結構長くなった。(4番)
 - ・社会人になってからは、友人と3人で借家に住んでいた。彼氏と出会った後、別の賃貸住宅に引っ越して彼氏と同居した。家賃は前より高くなった。(6番)

③住宅の老朽化

- ・社会人になってから友人と2人で賃貸住宅に暮らしていた。部屋が狭くて、キッチン、ベランダ等はなかった。日当たりもよくないので、室内の湿度が非常に高かったのを覚えている。正直に言うと、好きではない部屋だった。(9番)

④住宅が購入できない。

- 多くの外地戸籍大卒者が持家の住宅の購入を望んでいるが、高い家賃負担のため貯金ができず、マイホームが購入できないと不満をもっている。
- ・賃貸住宅に住んでいるので自分の家がほしいが、住宅を買おうと思っても買えない。だから安い賃貸住宅に住みたい。(6番)
 - ・収入は家賃など生活費に費やされるので、貯金できない。マイホームがほしいと思う。だから、政府には安い賃貸住宅の充実を望んでいる。(7番)

V. 研究のまとめ

本稿は、既存研究が少ない外地戸籍の大卒者に焦点を絞り、現地観察と質的なインタビュー調査を実施することにより、中国有数の大学都市である長春市を対象に彼らの居住・生活実態について、探索的に明らかにすることを試みた。北京市を中心とする第1級大都市での調査を主とする既存研究では、外地戸籍の大卒者の蟻族が大都市郊外地域に群居する様子がセンセーショナルに報告されている。長春市の郊外地域においても、不良住宅地の城中村が存在するが、今回の調査では、居住者の多くは出稼ぎ労働者であり、大卒者が群居している様子は観察されなかった。インタビュー調査では、外地戸籍の大卒者の多く

が分譲住宅が賃貸化した民間賃貸住宅をシェアして居住しており、どこか特定の地域に目だって集住しているわけではない可能性が高いことがわかった。

今回の 20 代・30 代の大学卒者へのインタビュー調査においては、長春市戸籍と外地戸籍の大学卒者の居住実態の差異は、大学卒業後の転居歴の回数に顕著に現れた。長春市戸籍の大学卒者が、大学寮を出た後実家に帰り、そのまま居住しているのに比べて、外地戸籍大学卒者の場合は、現在持ち家を購入して住んでいるケースも含めて、卒業後平均 3 回の転居を繰り返しており、職の不安定さよりも居住の不安定さが目立った。大学卒業後の雇用の不透明さと低い給与という経済状態のなかで、高い家賃による住居費を抑えるために、2・3 人の同居者と、時にはプライベートな空間もないようなストレスの高いシェア居住をせざるを得ず、結果として短期間でシェア居住の転居を繰り返す状況に陥る様子が明らかになった。インタビュー調査からは、①高い家賃負担、②シェア居住によるプライバシーの無さ、③老朽化による住宅の質の低さ、④住宅購入の困難さ（貯金できない）、という外地戸籍居住者の民間賃貸居住での課題が明らかになった。特に高い家賃負担は、外地戸籍大学卒者の生活を圧迫しており、シェア居住しながらも住居費負担は月収の 2・3 割に達し、調査をした大学卒者の多くが郷里の親から経済的支援を受けていた。

民間賃貸住宅のシェア居住は、特に結婚や出産などの世帯形成時には問題となる。恋人との同居や結婚を考える場合は、高い家賃を払ってプライベートな空間を確保するか、住宅を購入することになり、今回のインタビュー調査では外地戸籍の既婚者は全て住宅を購入していた。しかし、住宅購入時には頭金の支払いなど郷里の親の経済的支援を受けることが必要不可欠であり、大学卒者が自力で住宅購入することは困難であることがわかった。

中国政府は、2010 年より「公租房」住宅制度という公営住宅の新たな制度を開始し、労働力の確保を目的に外地戸籍新卒大学卒者も公営住宅に申請できるようにした。しかし、外地戸籍者に対する申請基準が厳しかったり、そもそも建設戸数が少ないなどの課題から（Du 2017）、「公租房」制度が近い将来において大都市に居住する外地戸籍大学卒者の居住の問題を緩和する政策とはなりえないと思われる。不良住宅地での低質な賃貸住宅の供給以外では、大都市の賃貸住宅は、中古の分譲住宅や企業住宅の賃貸化により進むと思われるが、場所を特定できない分譲賃貸の住宅市場や借家人の量的把握は難しく今後の研究及び政策上の課題である。

謝辞：本調査にご協力いただいた長春市 A 大学の教員及び卒業生の方には心より御礼を申し上げます。

[注]

- 1) 中国国勢調査によると長春市（区部）の 2010 年の人口は 768 万人で、前回の 2000 年の調査時の 714 万人から 7.6%増加した。
- 2) 本インタビュー調査では、調査協力者に所得を尋ねていない。
- 3) 調査した A 大学においては、長春市に実家がある学生でも大学生の間は親元を離れて大学寮に住むことになっており、著者の経験では中国の大学生は出身を問わず大学寮で生活するのは一般的である。

- 4) 4 番のケースは、4 番が住宅ローンを負担しているが家自体は親が所有している。
- 5) 本インタビュー調査では、住宅ローンの収入に占める割合は尋ねていない（民間賃貸住宅居住者のみに尋ねている）。

[参考文献]

- Dawei, Sun (2013) *Renters' housing conditions and factors limiting the supply of affordable rental housing in China, a case study of Beijing*. Master's thesis: Ritsumeikan University Graduate School of Policy Science.
- Rong, Du (2017) 『長春市における他戸籍低所得大卒者向けの公共賃貸住宅制度に関する研究』立命館大学大学院政策科学研究科修士論文.
- 鎌田文彦 (2010) 「中国における戸籍制度改革の動向：農民労働者の待遇改善に向けて」『レファレンス』60(3), 49-65.
- 徐帥・中山徹・劉曉翠・張春曉 (2015) 「農民工の住環境と生活実態に関する研究：中国・上海市を事例として」『日本建築学会近畿支部研究報告集計画系』53, 365-368.
- 菅野博貢 (2010) 「中国長春市における不良住宅地区の類型別分布と面積の変化：1997 年から 2007 年に至る 10 年間の中国・長春市不良住宅地区における居住環境の変容その 1」『日本建築学会計画系論文集』75(652), 1481-1490.
- 孫立・城所 (2011) 「中国都市部における各類型の低所得者地域の住環境改善意識に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』76(662), 819-826.
- 孫立・大西隆・城所哲夫 (2011) 「中国都市における城中村再開発の実態に関する一考察：中国西安市を事例として」『都市計画論文集』46(3), 469-474.
- 廉思（編）・関根謙（監訳）(2010[原著 2009])『蟻族：高学歴ワーキングプアたちの群れ』勉誠出版.

Housing conditions of non-resident college graduates in Changchun City, China

Rong Du, Kimiko Shiki

Abstract: This exploratory study investigates the housing conditions of non-resident college graduates in Changchun City, one of the well-known college cities in China, by employing qualitative methods including site visits and interviews. Existing research based in Beijing sensationally revealed appalling living conditions of “the ant tribe,” college graduates who clustered in certain suburban areas where mass low-quality rental housing is available. However, our research in Changchun City did not identify such clustered living of non-resident college graduates. Instead, our interview research finds many graduates share with their friends family-type rental housing formerly constructed and sold as condominiums for homeowners and they frequently change their residences under stressful conditions of shared living. Main housing problems expressed by our interviewees are summarized into: high rent payment burden, no or limited privacy in shared living, low-quality of housing, and unaffordability in purchasing own housing. Our research also finds many of them receive financial assistance from their parents for daily living and purchasing housing.

Keywords: Changchun City, non-resident college graduates, housing conditions